

吹田市備蓄計画

令和2年12月

吹田市

目 次

1	はじめに	1
2	備蓄計画策定に係る考え方	2
	(1) 備蓄物資支給対象者	2
	(2) 備蓄品目	3
	(3) 備蓄目標	5
3	各地域への配分計画	11
4	整備（購入）計画	
	(1) 食料	14
	(2) 生活必需品	14
	(3) 資器材等	14
	(4) 災害用トイレ	14
5	家庭内備蓄について	15
6	事業所等における備蓄について	16
7	本市職員における備蓄について	17
8	流通備蓄について	18
9	救援物資について	19
10	備蓄倉庫について	20
	(1) 機能・役割	20
	(2) 備蓄倉庫の整備計画及び補修計画	21
	(3) 備蓄倉庫に配備する品目	22
	資料1 備蓄物資の現状	
	資料2 備蓄倉庫の物流面での業務・役割分担	

1 はじめに

本市では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を踏まえ、平成 25 年度に「吹田市地震被害想定調査」を行うとともに、平成 26 年度、平成 28 年度に「吹田市地域防災計画」の改訂を実施し、見直した計画に基づき、防災・減災に向けた取り組みを推進してきました。

備蓄体制については、「吹田市地震被害想定調査」結果に基づき、本市で最大の被害をもたらす災害を想定し、被災者のために特に必要とする食糧などを重要物資と位置づけ、備蓄を進めてきました。

東日本大震災では、ライフラインだけでなく、道路、鉄道、空港等の公共施設にも大きな被害が発生し、広域的な災害となった場合には、物資調達及び配送に支障が出て、流通備蓄がすぐには機能しないことが検証されています。

また、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、ピーク時の避難者が約 18 万人発生し、避難所運営や避難所外避難者への対応、支援物資が集積拠点に留まってしまい各避難所まで届かなかったラストワンマイル問題、受入、運搬、各機関間での情報共有のあり方等、改めて、強化していくべき課題が浮き彫りとなりました。

この間における大阪府の動きは、平成 26 年 1 月に南海トラフ巨大地震の被害想定を公表し、平成 26 年 3 月南海トラフ巨大地震対策を織り込んだ大阪府地域防災計画の修正を行うとともに、その対策の具体化を図るため、平成 27 年 3 月に「発災による死者（犠牲者）を限りなくゼロに近づける。」ことなどを目標とする「新・大阪府地震防災アクションプラン」が策定され、主な重点アクションの一つとして「食糧や燃料等の備蓄及び集配体制の強化」が位置づけられました。これに基づき、府と市町村で構成する「大阪府域救援物資対策協議会」において検討した結果、今後の備蓄しておくべき救援物資の品目や量、各主体（府民、府、市町村）の役割（府 1：市 1）について、「大規模災害時における救援物資に関する備蓄方針」（平成 27 年 12 月）（以下「備蓄方針」という）として基本的な方向が示されました。

こうしたことから、今回、南海トラフ巨大地震対策における府の動向や本市の被害が最大となる災害「上町断層帯地震」対策、東日本大震災、熊本地震から得られた課題・教訓等を踏まえ、備蓄体制の強化を図ることを目的として、本計画を策定するものです。

この備蓄計画においては、自助・共助・公助の考え方を基本とし、日頃からの家庭内備蓄（ローリングストック）、協定先事業所からの流通備蓄、他都市からの救援物資等を考慮しながら、市民、事業者、行政が一体となり災害に対処することを目標とすることとしています。

なお、本計画は、新たな地震被害想定調査結果や課題が生じた場合には、その都度吹田市地域防災計画、受援計画等関係計画等と整合をはかりながら、修正するものとします。

平成 29 年 10 月

2 備蓄計画策定に係る基本的な考え方

備蓄方針では、上町断層帯地震等直下型地震における対応期間の考え方として、過去の直下型地震である阪神・淡路大震災において、発災当日昼ごろより、食糧などの救援物資が届き始め、被災自治体の市役所等で受入が行われていること（内閣府「阪神・淡路大震災教訓情報資料集」より）、直下型地震では建物倒壊等の被害は甚大であるものの津浪や内水氾濫等により広大な浸水想定区域の発生が危惧される南海トラフ巨大地震に比べると、その被災面積は限定されることから、発災2日目以降は、府内を含め他圏域からの救援物資が見込めると想定しているため、直下型地震の対応期間（府域内で対応を要する期間）は発災後1日間と設定されています。

また、南海トラフ巨大地震における対応期間としては、関東から四国・九州にかけて極めて広範囲に甚大な被害を及ぼす大規模・広域災害であり、救援物資についても物流不全による全国的な物資不足が見込まれています。このことから、東日本大震災後の救援物資輸送の回復期間や、中央防災会議で策定された被害想定における道路復旧期間、国のプッシュ型支援の実施計画等から発災後3日間は、家庭等の備蓄と被災地方公共団体における備蓄で対応することを想定していることから、南海トラフ巨大地震の対応期間は、発災後3日間と設定されています。

また、自らの身の安全は自ら守るのが防災・減災の基本であり、平常時から災害に備えて、各家庭において「最低3日間、推奨1週間」分以上の飲料水や食糧、生活必需品の備蓄を行う必要があります。

(1) 備蓄物資支給対象者

備蓄物資支給対象者については、「吹田市地震被害想定調査（平成25年10月）」の上町断層帯地震による避難所避難者数想定結果及び備蓄方針に基づいて算出します。

※備蓄方針では、避難所避難者以外の食糧需要を係数1.2としている。

阪神淡路大震災の事例では、避難者の1.2倍が食糧の必要な対象者であった。

○避難者数（「吹田市地震被害想定調査（平成25年10月）」から）

	避難所避難者数（人）	在宅避難者（人）※
JR以南地域	6,759	1,352
豊津・江坂・南吹田地域	8,610	1,722
片山・岸部地域	8,452	1,690
千里山・佐井寺地域	11,308	2,262
千里ニュータウン地域	6,844	1,369
山田・千里丘地域	10,161	2,032
合計	52,134	10,427

○要給食者数

避難所避難者数 52,134 人+在宅避難者 10,427 人=62,561 人

(2) 備蓄品目

備蓄品目は、緊急性があり、家屋の全壊、焼失により避難した市民にとって、災害発生から流通備蓄及び救援物資が到達するまでの約1日間、必要不可欠な食糧、生活必需品などを選定します。特に必要となる、重要11品目については、吹田市地域防災計画で位置づけ、大阪府と役割分担し、備蓄を進めてきました。また、国の「防災基本計画」や「新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応のポイント（令和2年6月16日付内閣府公表資料）」を踏まえ、重要11品目に加えて、「感染症予防物資」の備蓄も進めます。

重要11品目

- ①主食 ②高齢者食 ③粉ミルク ④毛布
- ⑤生理用品 ⑥哺乳瓶 ⑦簡易トイレ ⑧紙おむつ（乳幼児用）
- ⑨紙おむつ（大人用） ⑩トイレットペーパー ⑪マスク

ア 食料等

品 目		
主食（アルファ化米、乾パンなど）	重要11品目①	<ul style="list-style-type: none"> ■アルファ化米、レトルトごはん アレルギー特定原材料等27品目を含まないものを備蓄 ■ライスクッキー アレルギー特定原材料等27品目を含まず、ハラル認証取得商品を備蓄 ■乾パン 災害当日の応急的食事用として備蓄
高齢者用食（アルファ化米（お粥））	重要11品目②	高齢者及び幼児用等向けに、アレルギー特定原材料等27品目を含まず、咀嚼しやすい、お粥を備蓄
乳児用粉ミルク 又は乳児用液体ミルク（注）	重要11品目③	乳幼児用として、アレルギー特定原材料等3品目（ミルク、卵、大豆）のアレルゲン性を低減した粉ミルクを備蓄
簡易食料（ビスケット等）		調理不要な簡易食糧を備蓄

（注）令和元年10月、内閣府及び厚生労働省からの通知の「災害時における授乳の支援並びに母子に必要な物資の備蓄及び活用について」において、災害時の授乳環境整備等を進めること、特にライフラインが断絶された場合においても水等を使用せずに授乳できる乳児用液体ミルクの活用を推奨していることから、備蓄物資として試験的に導入し、備蓄する数量等を検討していきます。

イ 生活必需品

生活必需品については、避難所生活を行う上で、生活開始当初から必要不可欠と考えられる物資を備蓄します。

品 目	
毛布	重要11品目④
生理用品	重要11品目⑤
ほ乳瓶	重要11品目⑥
簡易トイレ	重要11品目⑦
紙おむつ（乳幼児用）	重要11品目⑧
紙おむつ（大人用）	重要11品目⑨
トイレトペーパー	重要11品目⑩
マスク	重要11品目⑪

ウ 資機材

資機材については、初期救助活動や避難所運営等、地域における応急対策活動に必要な資機材を備蓄します。

品 目	
スコップ	油圧ジャッキ（5 t）
大ハンマー	バール
のこぎり	つるはし
クリッパー（最大径 10mm）	トラロープ（直径 12mm100m）
救急セット	ブルーシート
折りたたみ式リヤカー	トランジスタメガホン
鍋、コンロ	携帯型多機能ライト
カセットコンロ（ボンベ 3 本付属）	ラジオ
やかん	発電発電機
ランタン	ガスボンベ
投光器	

エ 災害用トイレ

震災時には、上下水道設備が被害を受けることが想定され、トイレの使用が困難な状況となることを見込まれます。

そのため、災害時のトイレ対策として、現状で保有している屋外型、屋内型及び障がい者用トイレを使用するとともに、学校のトイレの活用を前提とした携帯トイレの備蓄を進めます。

品 目			
簡易トイレ	屋外型 【組立式】	屋内型 【段ボール製】	障がい者用 【組立式】
携帯トイレ	処理剤等		

オ 避難所における感染症対策に必要な物資（感染症予防物資）

国の「防災基本計画」や「新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応のポイント（令和2年6月16日付内閣府公表資料）」を踏まえ、避難所における感染症などの拡大防止を目的として、備蓄を進めます。

なお、感染症予防物資については災害発生時に避難所生活を行う上で必要な生活必需品として備蓄していますが、感染症のまん延下においては、感染の拡大を防止する観点から、医療機関や高齢者、介護施設などの福祉事業者、妊婦等へ配布を行うことも想定しています。

※「避難所運営マニュアル作成指針（新型コロナウイルス感染症対応編）（令和2年6月大阪府）」P.7「(4) 物資・資機材の確保」に記載の物資については、大阪府との協力のもと、平時より備蓄・調達ルートの確保に努めるものとする。

種 別	品 目
消毒液	アルコール手指消毒液 次亜塩素酸ナトリウム
装備品	フェイスシールド 使い捨て手袋
設備品	簡易ベッド パーテーション 体温計（接触型・非接触型）
消耗品	ゴミ袋 蓋つきゴミ箱 ハンドソープ ペーパータオル 除菌用ウェットティッシュ
その他	テント、防護服

(3) 備蓄目標

ア 食料等

備蓄物資支給対象者数 52,134 人に配布する食料等の備蓄目標を、大阪府の備蓄方針に示された大阪府域内の救援物資必要量の算出式により算定します。

項目	算出式(人口比率は、平成 22 年度国勢調査より)
食糧	(直下型地震による)避難所避難者数×3食×1.2(注)により算出 (注)1.2 という係数は、避難所避難者以外の食糧需要を想定したもの。

項目	算出式(人口比率は、平成 22 年度国勢調査より)
高齢者用食	上記で算出した数量のうち、5%(80 歳以上人口比率)を高齢者食とする。
乳児用 粉ミルク 又は乳児用 液体ミルク	【粉ミルク】 (直下型地震による)避難所避難者数×1.6%(0~1 歳人口比率)×70%(人工授乳率)×130g (注)/人/日で算出 (注)130g は各メーカーの1日摂取量目安 26g×5回/人/日=130g/人/日 【液体ミルク】 (直下型地震による)避難所避難者数×1.6%(0~1 歳人口比率)×70%(人工授乳率)×1リットル/人/日

(ア) 食糧

(主食)【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 3 \text{ 食} \times 1.2 \times 1/2 \div 94,000 \text{ 食}$

(簡易食糧)【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 3 \text{ 食} \times 1.2 \times 1/2 \div 94,000 \text{ 食}$

(イ) 高齢者用食

【備蓄目標】 $94,000 \text{ 食} \times 0.05 \div 4,700 \text{ 食}$

(ウ) 粉ミルク

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 0.016 \times 0.7 \times 130 \text{ g/日} \times 1/2 \div 38 \text{ kg}$

イ 生活必需品

備蓄物資支給対象者数 52,134 人に配布する生活必需品の備蓄目標を、大阪府の備蓄方針に示された大阪府域内の救援物資必要量の算出式により算定します。なお、マスクについては、新型コロナウイルス感染症を考慮し、市独自の基準で必要数を算出しています。

項目	算出式(人口比率は、平成 22 年度国勢調査より)
毛布 (保温用資材)	避難所避難者数×必要枚数 2 枚/人 ※保温用資材の例：アルミブランケット(シート)等
ほ乳瓶	避難所避難者数×1.6%(0~1 歳人口比率)×70%(人工授乳率)×1 本(注)/人 (注)「瓶」以外、「使い切りタイプ」等の場合は、5回/人/日とする。
乳児・小児 用おむつ	(直下型地震による)避難所避難者数×2.5%(0~2 歳人口比率)×8 枚(注)/人/日 (注)8 枚/人/日は 3H で 1 枚使用すると平均データから算出(内閣府確認)
大人用 おむつ	(直下型地震による)避難所避難者数×必要者割合 0.005×8 枚(注)/人/日 (注)8 枚/人/日は 3H で 1 枚使用すると平均データから算出(内閣府確認)
生理用品	(直下型地震による)避難所避難者数×48%(12~51 歳人口比率)×52%(注) (12~51 歳女性人口比率)×5/32(月経周期)×5 枚/人/日 (注 1)対象年齢 12 歳から 51 歳、月経周期 5 日/32 日については、日本産婦人科学会編著「女と男のディクショナリー」を参考に設定
トイレット ペーパー	(直下型地震による)避難所避難者数×7.5m(注) /人/日 (注)NPO 緊急災害備蓄推進協議会(経済産業省推奨)によると 4 人家族で 150m 巻き 6 ロールを約 1 か月分としている。150m×6 ロール÷4 人÷30 日=7.5m/人/日
マスク	市独自基準で必要数を算出。詳細は、P.9 の算出式を参照。 【参考】(大阪府の算出基準) (直下型地震による)避難所避難者数×1 枚/人/日

(ア) 毛布

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 2 \text{ 枚} \times 1/2 \div 52,200 \text{ 枚}$

(イ) ほ乳瓶

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 0.016 \times 0.7 \div 590 \text{ 本}$

(ウ) 乳児・小児用おむつ

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 0.025 \times 8 \text{ 枚} \times 1/2 \div 5,300 \text{ 枚}$

(エ) 大人用おむつ

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 0.005 \times 8 \text{ 枚} \times 1/2 \div 1,100 \text{ 枚}$

(オ) 生理用品

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 0.48 \times 0.52 \times 5/32 \times 5 \text{ 枚} \times 1/2 \div 5,100 \text{ 枚}$

(カ) トイレトペーパー

【備蓄目標】 $52,134 \text{ 人} \times 7.5 \text{ m} \div 150 \text{ m} / \text{ロール} \times 1/2 \div 1,300 \text{ ロール}$

(キ) マスク

【備蓄目標】 (1) 避難者分 $52,134 \text{ 人} \times 1 \text{ 枚} \times 7 \text{ 日} = 364,938 \text{ 枚}$

(2) 運営者分 $250 \text{ 枚} \times 65 + 100 \text{ 枚} \times 70 = 23,250 \text{ 枚}$

(1) + (2) = $388,200 \text{ 枚}$

ウ 資機材

救助用資機材については、分散備蓄場所（各小中学校 54 箇所、消防団詰所 11 箇所、交番 17 箇所）に備蓄する。その他の資機材については、防災用備蓄倉庫（市内 6 地域に各 1 箇所）もしくは各避難所（135 箇所）等に次の数量を備蓄します。

品 目	数 量
1 スコップ	分散備蓄 82 箇所 $\times 4 = 328$ 本
2 油圧ジャッキ	分散備蓄 82 箇所 $\times 2 = 164$ 式
3 大ハンマー	分散備蓄 82 箇所 $\times 2 = 164$ 本
4 バール	分散備蓄 82 箇所 $\times 8 = 656$ 本
5 のこぎり	分散備蓄 82 箇所 $\times 4 = 328$ 本
6 つるはし	分散備蓄 82 箇所 $\times 4 = 328$ 本
7 クリッパー（最大径 10mm）	分散備蓄 82 箇所 $\times 2 = 164$ 本
8 トラロープ（直径 12mm100m）	分散備蓄 82 箇所 $\times 2 = 164$ 本
9 救急セット（※中学校除く）	分散備蓄 64 箇所 $\times 1 = 64$ セット
10 ラジオ（※小学校のみ）	分散備蓄 36 箇所 $\times 1 = 36$ 台
11 投光器（※小・中学校のみ）	分散備蓄 54 箇所 $\times 2 = 108$ 台
12 ブルーシート	備蓄倉庫 6 箇所 720 枚（20 枚/小学校 $\times 36$ 校） その他倉庫 3,480 枚
13 折りたたみ式リヤカー	備蓄倉庫 6 箇所 36 台（1 台/小学校 $\times 36$ 校）
14 トランジスタメガホン	備蓄倉庫 6 箇所 108 個（3 個/小学校 $\times 36$ 校）
15 鍋、コンロ	備蓄倉庫 6 箇所 36 式（1 式/小学校 $\times 36$ 校）
16 カセットコンロ（ボンベ 3 本付属）	備蓄倉庫 6 箇所 72 式（2 式/小学校 $\times 36$ 校）
17 やかん	備蓄倉庫 6 箇所 72 式（2 式/小学校 $\times 36$ 校）
18 携帯型多機能ライト	備蓄倉庫 6 箇所 108 本（3 本/小学校 $\times 36$ 校）
19 ランタン	備蓄倉庫 6 箇所 360 台（10 台/小学校 $\times 36$ 校）
20 発動発電機	分散備蓄 135 箇所 135 台（1 台/避難所 $\times 135$ 施設）
21 ガスボンベ	分散備蓄 135 箇所 1,620 本（12 本/避難所 $\times 135$ 施設）

エ 災害用トイレ

備蓄物資支給対象者数 52,134 人に対応する災害用トイレの備蓄目標を、大阪府の備蓄方針に示された大阪府域内の救援物資必要量の算出式により算定します。

項目	算出式(人口比率は、平成 22 年度国勢調査より)
簡易トイレ	避難所避難者数×0.01 ※避難所避難者 100 人に 1 基、市町村は BOX 型(マンホールトイレ等含む)、府は調達を含め組立式等をそれぞれ確保する。
携帯トイレ	避難所避難者数×(1-(0.025+0.005))×1×5 ※避難所避難者でおむつ使用者(大人、乳幼・小児)以外分を確保する。

(ア) 簡易トイレ(分散備蓄場所 小学校 36 校のみ)

【備蓄目標】52,134 人×0.01≒530 基

屋外型⇒分散備蓄 36 箇所×6 基=216 基

屋内型⇒分散備蓄 36 箇所×10 個=360 個

障がい者用⇒分散備蓄 36 箇所×1 基=36 基

(イ) 携帯トイレ(防災用備蓄倉庫 6 箇所、分散備蓄場所 各小中学校 54 箇所、公民館 29 箇所、市民ホール 8 箇所)

【備蓄目標】52,134 人×0.97×1 枚/日×5 回≒252,850 枚

オ 避難所における感染症対策に必要な物資(感染症予防物資)

備蓄物資支給対象者数 52,134 人に対応する感染症予防物資については、大阪府域内の救援物資必要量の算出式がないため、市独自の基準で必要数を算出しています。

(1) 収容可能人数 500 人以上の避難所施設

想定避難者数：700 人/施設

施設数：65 施設

施設内訳：小学校 36 校、中学校 18 校、高校体育館 5 施設、市民体育館 3 施設、武道館、青少年クリエイティブセンター、文化会館

(2) 収容可能人数 500 人以下の避難所施設

想定避難者数：100 人/施設

施設数：70 施設

施設内訳：地区公民館 29 館、幼稚園 15 園、市民ホール 8 施設、市民センター 4 施設、コミュニティセンター 3 施設、山田ふれあい文化センター、地区集会所 2 施設、総合運動場、自然体験交流センター、夢つながり未来館、交流活動館、男女共同参画センター・教育センター、勤労者会館、シルバーワークプラザ、資源リサイクルセンター

想定避難者数 52,134 人(市に一番影響が大きい地震(上町断層帯)が発生した場合)

700 人×65 施設+100 人×70 施設=52,500 人≒52,134 人

※震源地によって地域差が出るのが想定されるが、避難者は平均数で算出。

項目	算出式
アルコール 手指消毒液	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数
フェイス シールド	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 運営者(受付担当)×2 交替×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 運営者(受付担当)×2 交替×施設数
使い捨て 手袋	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 350 枚(7 日分) ×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 150 枚(7 日分) ×施設数
テント	2 張×避難所数(小学校 36 校) +4 張(本部用)
パーテー ション	45 区画×避難所数(小学校 36 校) +20 区画(本部用)
非接触式 体温計	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 各 2 台 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 各 1 台
ハンド ソープ	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数
ペーパー タオル	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 想定避難者数×10 回/日×7 日分×施設数
防護服	(1)収容可能人数 500 人以上の避難所施設 運営者×2 交替×7 日分×施設数 (2)収容可能人数 500 人以下の避難所施設 運営者×2 交替×7 日分×施設数
マスク	(1)避難者：避難所避難者数×必要枚数 1 枚/人×7 日分 (2)運営者：250 枚(7 日分)×(収容可能人数 500 人以上の避難所施設数) + 100 枚(7 日分)×(収容可能人数 500 人以下の避難所施設数)

(ア) アルコール消毒液(分散備蓄場所 135 施設)

【備蓄目標】(1)700 人×10 回×7 日=49,000 回分

1L(333 回分)のため、1L×148 本(49,284 回分)を購入
148 本×65 施設=9,620 本

(2)100 人×10 回×7 日=7,000 回分

1L(333 回分)のため、1L×22 本(7,326 回分)を購入
22 本×70 施設=1,540 本

(1) + (2) = 9,620 本 + 1,540 本 = **11,160 本**

(イ) フェイスシールド(分散備蓄場所 135 施設)

【備蓄目標】(1)6 人×2 交替×65 施設=780 枚

(2)2 人×2 交替×70 施設=280 枚

(1) + (2) = 780 枚 + 280 枚 = **1,060 枚**

(ウ) 使い捨て手袋(分散備蓄場所 135 施設)

【備蓄目標】(1)350 枚×65 施設=22,750 枚

$$(2) 150 \text{ 枚} \times 70 \text{ 施設} = 10,500 \text{ 枚}$$
$$(1) + (2) = 22,750 \text{ 枚} + 10,500 \text{ 枚} = \boxed{33,250 \text{ 枚}}$$

(エ) テント（小学校 36 校へ優先的に配備）

$$\text{【備蓄目標】 } 2 \text{ 張} \times 36 \text{ 校} + 4 \text{ 張} = \boxed{76 \text{ 張}}$$

(オ) パーテーション（小学校 36 校へ優先的に配備）

$$\text{【備蓄目標】 } 45 \text{ 区画} \times 36 \text{ 校} + 20 \text{ 区画} = \boxed{1,640 \text{ 区画}}$$

(カ) 非接触式体温計（分散備蓄場所 135 施設）

$$\text{【備蓄目標】 } (1) 2 \text{ 台} \times 65 \text{ 施設} = 130 \text{ 台}$$
$$(2) 1 \text{ 台} \times 70 \text{ 施設} = 70 \text{ 台}$$
$$(1) + (2) = 130 \text{ 台} + 70 \text{ 台} = \boxed{200 \text{ 台}}$$

(キ) ハンドソープ（分散備蓄場所 135 施設）

$$\text{【備蓄目標】 } (1) 700 \text{ 人} \times 10 \text{ 回} \times 7 \text{ 日} = 49,000 \text{ 回分}$$

250ml（250 回分）のため、
250ml \times 196 本（49,000 回分）を購入
196 本 \times 65 施設 = 12,740 本

$$(2) 100 \text{ 人} \times 10 \text{ 回} \times 7 \text{ 日} = 7,000 \text{ 回分}$$

250ml（250 回分）のため、
250ml \times 28 本（7,000 回分）を購入
28 本 \times 70 施設 = 1,960 本

$$(1) + (2) = 12,740 \text{ 本} + 1,960 \text{ 本} = \boxed{14,700 \text{ 本}}$$

(ク) ペーパータオル（分散備蓄場所 135 施設）

$$\text{【備蓄目標】 } (1) 700 \text{ 人} \times 10 \text{ 枚} \times 7 \text{ 日} = 49,000 \text{ 枚}$$

1 箱 200 枚入の場合、49,000 枚 \div 200 枚 = 245 箱
245 箱 \times 65 施設 = 15,925 箱

$$(2) 100 \text{ 人} \times 10 \text{ 枚} \times 7 \text{ 日} = 7,000 \text{ 枚}$$

1 箱 200 枚入の場合、7,000 枚 \div 200 枚 = 35 箱
35 箱 \times 70 施設 = 2,450 箱

$$(1) + (2) = 15,925 \text{ 箱} + 2,450 \text{ 箱} = \boxed{18,375 \text{ 箱}}$$

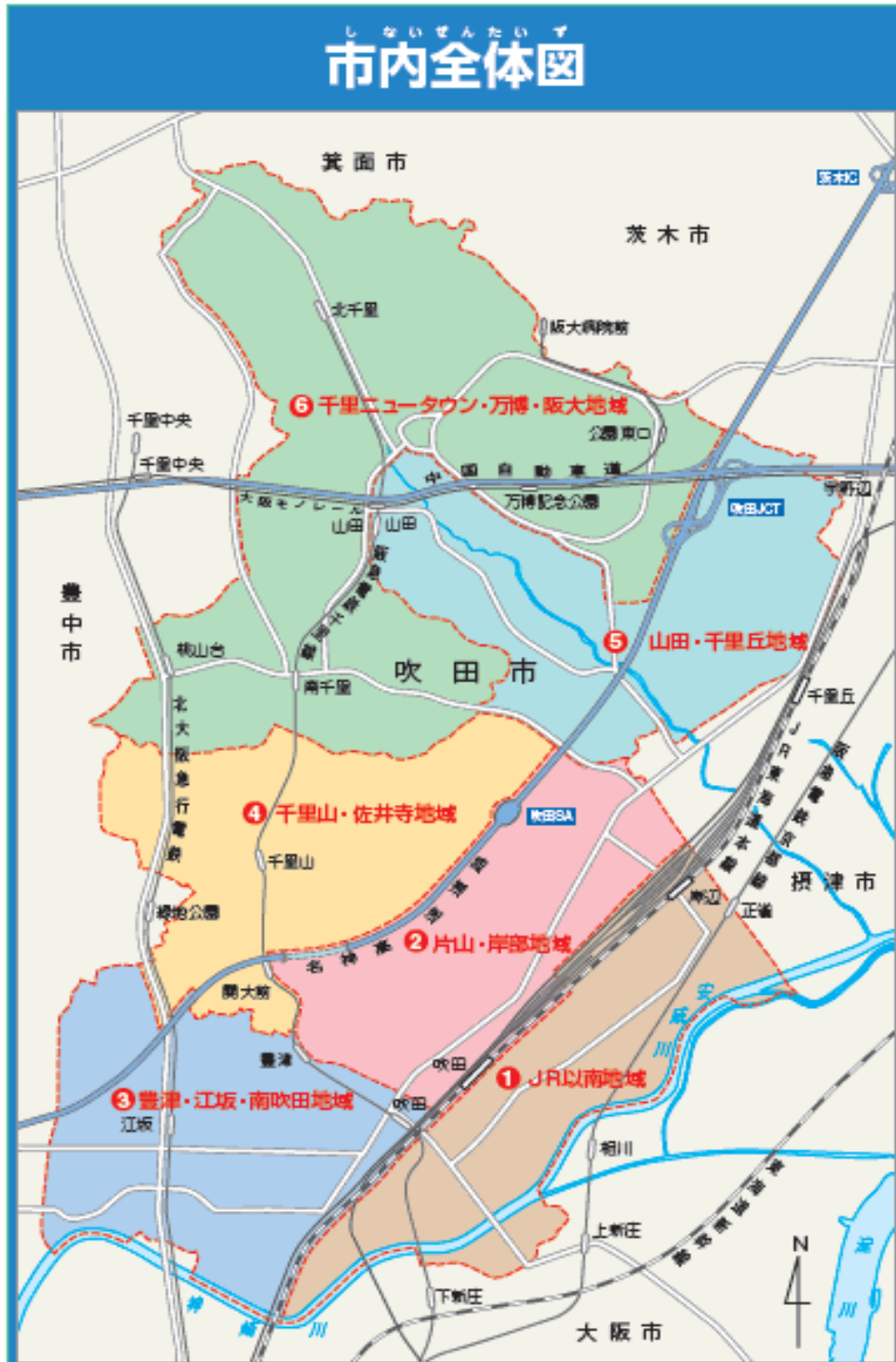
(ケ) 防護服（分散備蓄場所 135 施設）

$$\text{【備蓄目標】 } (1) 15 \text{ 人} \times 2 \text{ 交替} \times 7 \text{ 日} \times 65 \text{ 施設} = 13,650 \text{ 着}$$
$$(2) 5 \text{ 人} \times 2 \text{ 交替} \times 7 \text{ 日} \times 70 \text{ 施設} = 4,900 \text{ 着}$$
$$(1) + (2) = 13,650 \text{ 着} + 4,900 \text{ 着} = \boxed{18,550 \text{ 着}}$$

3 各地域への配分計画

地域別の備蓄物資支給対象者（要給食者）数や避難所数等に基づき、次のとおり、各地域への配分計画を定めます。

「参照：吹田市防災ハンドブック」



各地域への配分計画（1/2）

		JR 以南	豊津・江坂・南吹田	片山・岸部	千里山・佐井寺	千里 NT	山田・千里丘	合計
想定避難者数		6,759 人	8,610 人	8,452 人	11,308 人	6,844 人	10,161 人	52,134 人
避難所数（全体）		16 箇所	18 箇所	19 箇所	19 箇所	30 箇所	33 箇所	135 箇所
避難所数（500 人以上）		7 箇所	9 箇所	9 箇所	8 箇所	16 箇所	16 箇所	65 箇所
※（ ）は小学校の数		（4 箇所）	（5 箇所）	（5 箇所）	（5 箇所）	（8 箇所）	（9 箇所）	（36 箇所）
避難所数（500 人以下）		9 箇所	9 箇所	10 箇所	11 箇所	14 箇所	17 箇所	70 箇所
食料	食糧（主食）	12,200 食	15,500 食	15,250 食	20,400 食	12,350 食	18,300 食	94,000 食
	食料（簡易）	12,200 食	15,500 食	15,250 食	20,400 食	12,350 食	18,300 食	94,000 食
	高齢者用食	609 食	776 食	761 食	1,019 食	620 食	915 食	4,700 食
	粉ミルク	4.5kg	7.5kg	6kg	8kg	5kg	7kg	38kg
生活必需品	毛布	6,786 枚	8,613 枚	8,456 枚	11,328 枚	6,838 枚	10,179 枚	52,200 枚
	ほ乳瓶	77 本	97 本	96 本	128 本	77 本	115 本	590 本
	乳児・小児用おむつ	689 枚	874 枚	859 枚	1,150 枚	694 枚	1,034 枚	5,300 枚
	大人用おむつ	143 枚	181 枚	178 枚	239 枚	144 枚	215 枚	1,100 枚
	生理用品	663 枚	841 枚	826 枚	1,107 枚	668 枚	995 枚	5,100 枚
	トイレットペーパー	169 ロール	214 ロール	211 ロール	282 ロール	170 ロール	254 ロール	1,300 ロール
	マスク	配分計画数は、P.13 各地域への配分計画（2/2）の感染症予防物資（マスク）に記載。						
資器材	スコップ	48 本	52 本	44 本	48 本	60 本	76 本	328 本
	油圧ジャッキ	24 式	26 式	22 式	24 本	30 本	38 本	164 本
	大ハンマー	24 式	26 式	22 式	24 本	30 本	38 本	164 本
	バール	96 本	104 本	88 本	96 本	120 本	152 本	656 本
	のこぎり	48 本	52 本	44 本	48 本	60 本	76 本	328 本
	クリッパー	24 本	26 本	22 本	24 本	30 本	38 本	164 本
	トラロープ	24 本	26 本	22 本	24 本	30 本	38 本	164 本
	救急セット	10 セット	10 セット	10 セット	9 セット	10 セット	15 セット	64 セット
	ラジオ	4 個	5 個	5 個	5 個	8 個	9 個	36 個
	投光器	12 基	16 基	12 基	16 基	26 基	26 基	108 基
	ブルーシート	80 枚	100 枚	100 枚	100 枚	3,640 枚	180 枚	4,200 枚
	折りたたみ式リヤカー	4 台	5 台	5 台	5 台	8 台	9 台	36 台
	トランジスタメガホン	12 個	15 個	15 個	15 個	24 個	27 個	108 個
	鍋・コンロ	4 個	5 個	5 個	5 個	8 個	9 個	36 個
	カセットコンロポンペ付	8 式	10 式	10 式	10 式	16 式	18 式	72 式
	やかん	8 式	10 式	10 式	10 式	16 式	18 式	72 式
	携帯型多機能ライト	12 本	15 本	15 本	15 本	24 本	27 本	108 本
	ランタン	40 台	50 台	50 台	50 台	80 台	90 台	360 台
発動発電機	16 台	18 台	19 台	19 台	30 台	33 台	135 台	
カセットガスポンペ	192 本	216 本	228 本	228 本	360 本	396 本	1,620 本	

各地域への配分計画（2/2）

		JR以南	豊津・江坂・南吹田	片山・岸部	千里山・佐井寺	千里NT	山田・千里丘	合計
想定避難者数		6,759人	8,610人	8,452人	11,308人	6,844人	10,161人	52,134人
避難所数（全体）		16箇所	18箇所	19箇所	19箇所	30箇所	33箇所	135箇所
避難所数（500人以上）		7箇所	9箇所	9箇所	8箇所	16箇所	16箇所	65箇所
※（ ）は小学校の数		(4箇所)	(5箇所)	(5箇所)	(5箇所)	(8箇所)	(9箇所)	(36箇所)
避難所数（500人以下）		9箇所	9箇所	10箇所	11箇所	14箇所	17箇所	70箇所
災害用 トイレ	屋外用	24基	30基	30基	30基	48基	54基	216基
	屋内用	40個	50個	50個	50個	80個	90個	360個
	障がい者用	4基	5基	5基	5基	8基	9基	36基
	携帯トイレ	32,871枚	41,720枚	40,962枚	54,868枚	33,123枚	49,306枚	252,850枚
感染症予防物資	アルコール消毒液	1,234本	1,530本	1,552本	1,426本	2,676本	2,742本	11,160本
	フェイスシールド	120枚	144枚	148枚	140枚	248枚	260枚	1,060枚
	使い捨て手袋	3,800枚	4,500枚	4,650枚	4,450枚	7,700枚	8,150枚	33,250枚
	テント	8張	10張	10張	10張	20張	18張	76張
	パーティション	180区画	225区画	225区画	225区画	380区画	405区画	1,640区画
	非接触式体温計	23台	27台	28台	27台	46台	49台	200台
	ハンドソープ	1,624本	2,016本	2,044本	1,876本	3,528本	3,612本	14,700本
	ペーパータオル	2,030箱	2,520箱	2,555箱	2,345箱	4,410箱	4,515箱	18,375箱
	防護服	2,100着	2,520着	2,590着	2,450着	4,340着	4,550着	18,550着
	マスク（避難者）	47,300枚	60,300枚	59,150枚	79,150枚	47,900枚	71,150枚	364,950枚
	マスク（運営者）	2,650枚	3,150枚	3,250枚	3,100枚	5,400枚	5,700枚	23,250枚

4 整備（購入）計画

整備（購入）計画を次のとおり定めます。

（1）食料

主食や簡易食料については、5年間以上の賞味期限を有するもの、粉ミルクについては、18ヶ月の賞味期限を有するものを、計画的に購入します。

賞味期限が1年を切った食料については、自主防災組織等の訓練や防災講座の啓発品として、あるいは、小・中学校の防災教育の一環として活用します。また、市で開催するイベントなどでも活用することにより、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図ります。なお、廃棄処分を極力発生させないため、状況に応じ、生活困窮者への支援活動として寄付を行うなど有効活用を図ります。

（2）生活必需品

毛布については、購入から10年以上経過したものについては、リパック（洗浄及び再包装処理）等を検討します。

紙おむつや生理用品、トイレットペーパーについては、不足が生じた場合に、汎用性が高いものを購入します。

購入から長期間経過した物については、定期的にサンプル調査を行い、使用可能かどうか確認のうえ、劣化等があれば入替を行います。

（3）資器材

新たに品目を追加した充足していない資器材については、計画的に購入し、配備を進めます。

また、故障等が生じた場合には、その都度、修繕や補充を行います。なお、資器材については、発災直後から市民自ら使用する必要があるため、保管場所と使用方法の周知が重要です。小中学校及び自主防災組織等での防災訓練・防災啓発講座等で使用する機会を多く設けることに努めます。

（4）災害用トイレ

災害用トイレについては、既存のトイレ便座を使い即時の対応が可能な携帯トイレを計画的に購入します。

5 家庭内備蓄について

家庭内備蓄の意義や必要性について、防災出前講座や防災ハンドブック、ポケットブック、防災ブック、広報紙等を通じて、市民に対して継続的に啓発を行っていくこととします。

家庭内備蓄の広報に際しては、3日分以上の食料や一人1日3リットル以上の飲料水の備蓄を呼びかけていくとともに、災害発生時にすぐに取り出せる場所に保管することや、日常生活で片付けを通して備蓄を意識すること等併せて呼びかけていきます。

また、消費しながら備蓄をしていくような家庭内循環備蓄（ローリングストック）等、日頃から防災を意識できる身近な防災を積極的に推奨していきます。

【家庭で用意することが望ましいもの】

(1) 食料等（※3日分以上）

ア 備蓄のポイント

身の周りにあり、すぐに食べられるものが家庭内備蓄といえます。

(ア) 日頃から使用でき、長期間保存可能な食品等を買置きし、賞味期限（消費期限）をチェックしながら日常生活で利用することで、常に備蓄があるようにしておきます。（家庭内循環備蓄「ローリングストック」）

(イ) そのまま食べられるか、お湯（または水）を足す程度の簡単な調理で済む食品を備蓄しておきます。

(ウ) 持ち運びが便利なものを持ち出しやすい場所に置いておきます。

(エ) 必要最低限のエネルギーが得られるものを用意しておきます。

(オ) 各家庭の事情（乳幼児、高齢者、アレルギー、障がい、病気等）に合わせた食料品を用意しておきます。

主食	アルファ化米、レトルト食品（白米、白粥、五目御飯等）、米、冷凍めん（うどん、そば）、インスタント麺、スパゲッティ、ビスケット、クラッカー 等
主菜、副菜	缶詰（魚介類、肉類、野菜類、シチュー類）、レトルト食品（カレー、パスタソース）、乾燥食品（切り干し大根、干し椎茸、高野豆腐、ひじき、わかめ、昆布 等）、梅干、らっきょう、納豆、漬物 等
汁物	スープ類（味噌汁、わかめスープ、コーンポタージュ 等）
調味料	砂糖、塩、みそ、醤油、コンソメ 等
嗜好品	あめ、チョコレート、スナック菓子、果物缶詰、ふりかけ 等
飲料水	ミネラルウォーター、お茶、スポーツドリンク、野菜ジュース 等

(2) 水（1人当たり 1日3リットル以上）

(3) 生活必需品（資器材含む）等 ※防災ブックP.45-P.46より抜粋

携帯ラジオ、携帯電話充電器、懐中電灯、軍手、毛布、タオル、耐熱ラップ、マスク、ウエットティッシュ、使い捨てカイロ、ばんそうこう 等

6 事業者等における備蓄について

大規模災害が発生した場合、消防・自衛隊等の行政機関は、道路の渋滞や多数の出動要請等により即座に事業者等からの救援要請に対応できるとは限りません。

阪神淡路大震災の際にも近所の人等に救助された人が全体の9割で、消防・自衛隊等に救助された人は1割に満たないという事例もあります。

このため、事業者等は、ライフラインの復旧にめどが立つ3日分程度の備蓄品を確保し、必要であれば安全が確認できるまでの間、施設内に社員を待機させることが可能となるようにする必要があります。

また、所有する施設の耐震性を強化するとともに、日頃からオフィスの家具類の転倒・落下・移動防止対策、事務所内のガラス飛散防止対策等にも取り組み、社員等の安全確保にも努める必要があります。

【事業者等で用意することが望ましいもの】

※大阪府帰宅困難者支援に関する協議会策定

「事業所における「一斉帰宅の抑制」対策ガイドライン」より抜粋。

(1) 食料・飲料水 3日以上

(2) 生活必需品（資器材含む）

毛布やそれに類する保温シート、簡易トイレ、衛生用品（トイレットペーパー等）、敷物（ビニールシート等）、救急医療薬品類、携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池等

(3) 業務継続等の要素も加味し、事業者ごとに必要となる備蓄品

非常用発電機、燃料（注）、工具類、調理器具（携帯用ガスコンロ、鍋等）、副食（缶詰等）、ヘルメット、軍手、自転車、地図 等

（注）危険物関係法令等により消防署への許可申請等が必要となります。

【従業員等自らで用意することが望ましいもの】

非常用食料、ペットボトル入り飲料水、運動靴、常備薬、携帯電話充電器 等

7 本市職員における備蓄について

発災直後から災害対応に従事する職員用の食料・飲料水等の確保が必要となる。職員が必要とする食料については自ら自宅及び各職場において一定の備蓄をすることが原則となるが、対応が長期におよぶ場合は、職員自らが用意する食料等だけでは、継続的に十分な対応を図ることが困難な事態となることが予測される。職員用の食料、飲料水等の必要数量を把握した上で、備蓄を行い、迅速かつ円滑な災害対応を図る。

※職員備蓄については、「吹田市職員災害対応用食料等備蓄計画」を策定済。

(1) 備蓄品目及び数量

初動3日間を対象にローテーション対応を考慮し、備蓄目標は2日分とする。

食料・飲料水、1日3食×2日分、計6食（1人あたり）備蓄する。

ア 保存食（ごはん） 2食×2日分

イ 保存食（パン） 1食×2日分

ウ 飲料水（500ml） 3本×2日分

災害対応に従事する職員を対象とするため、職務に災害対応業務が含まれる会計年度任用職員も対象とする。

8 流通備蓄について

本市では、流通業界等の業者と協定を締結し、災害時に必要な物資を調達することとされていますが、このような、協定先から調達する物資を「流通備蓄」としています。

現在、食料や水、生活必需品、日用品雑貨、資器材等に関して市内にある事業者等と協定を締結しています。

今後も協定の締結を推進し、流通備蓄がいざというときに有効に機能する体制としていきます。

○流通備蓄に関する協定一覧（令和2年12月現在）

協定名	内容	協定先
災害時における物資供給に関する協定	被災者に対する物資の供給を円滑に行うための協定	イオンリテール株式会社吹田店 イオンリテール株式会社北千里店 イオンリテール株式会社南千里店 イズミヤ株式会社千里丘店 山崎製パン株式会社大阪第一工場 吹田市商業団体連合会 エースコック株式会社 アスクール株式会社 北大阪農業協同組合
燃料供給に関する協定	燃料の供給	旭油業株式会社 森石油株式会社
災害時における飲料水等の提供協力に関する協定	飲料の提供等	アサヒビール株式会社吹田工場 アサヒ飲料株式会社近畿圏支社 コカ・コーラウエスト株式会社 株式会社伊藤園 アクアクララ株式会社
災害時における生活物資の供給に関する協定	生活物資の供給	株式会社スギ薬局
災害用物資を活用した防災活動に関する協定	物資の調達と供給	一般社団法人日本非常食推進機構
災害時における資機材レンタルの協力に関する協定	避難所開設、災害復旧に必要な資機材等のレンタル協力	奥村機械株式会社
災害時における段ボール製簡易ベッド等の支援協力に関する協定	ダンボール製簡易ベッド等 救援物資の供給	セツカートン株式会社
災害時における仮設トイレの設置協力に関する協定	仮設トイレの設置協力	株式会社ユーミックス

9 救援物資について

東日本大震災や熊本地震などでは、全国から各被災地の集積場所（拠点）に救援物資が届けられましたが、物資の在庫管理や仕分けをする者の処理能力を超え、救援物資の物流全体の低下を招き、情報収集・管理体制が十分に行われず、避難所等における物資の需要把握が的確にできなかったため、救援物資が各避難所まで円滑に届かない状態が発生しました。

その要因の一つとして、個人からの救援物資に多種多様な物が詰められて送られてくるため、その開封・仕分け作業に時間がかかったことが考えられます。そこで、本市では、救援物資については、自治体や事業者、団体からの受入れのみとし、個人からのものは辞退することとします。なお、その形態についても、単品包装で内容・数量をラベル表示したものとします。

また、国や府、他自治体等とも連携・協力して、速やかに救援物資の受入が行えるよう、大阪府受援計画（仮称）及び吹田市受援計画に基づき、受援体制の構築を図り、体制強化に努めていきます。

○救援物資に関する協定一覧（令和2年12月現在）

協定名	内容	協定先
災害時における相互応援協定	食料、水、毛布、ビニールシート、避難者救援用物資の応援	新潟県妙高市 福井県若狭町 大阪府能勢町 滋賀県高島市 高知県土佐町 兵庫県香美町
三島地域災害時相互応援に関する協定	食料、飲料水、生活必需品、その他供給に必要な資機材の提供	高槻市 茨木市 摂津市 島本町
災害時における備蓄物資の相互提供に関する協定	応急措置に必要な救助物資の提供	大阪市

○物資の保管等に関する協定一覧（令和2年12月現在）

協定名	内容	協定先
市立吹田サッカースタジアムの管理に関する基本協定 【市立吹田サッカースタジアムにおける防災用備蓄倉庫の運用規定】	災害時用備蓄物資の保管 災害時用備蓄物資及び救援物資の搬入搬出	株式会社ガンバ大阪
災害時における救援物資拠点場所の提供協力に関する協定	救援物資の搬入搬出	吹田ロジスティック特定目的会社 アスクール株式会社

○物資の輸送に関する協定一覧（令和2年12月現在）

協定名	内容	協定先
災害時における物資の自動車輸送に関する協定	物資の緊急輸送体制の確保	赤帽大阪府軽自動車運送協同組合

10 防災用備蓄倉庫等について

東日本大震災、熊本地震を経る中で得た多くの教訓から、救援物資調達・物流モードは、フェーズによって切り替える必要があることがわかってきました。また、避難所等からの物資需要を的確に把握し、円滑な物資提供を可能にするには、作業効率や調達ルート等を勘案した複数拠点の使い分け、情報収集伝達・管理体制の構築も併せて必要となります。

本市では、「吹田市地域防災計画」において小学校区単位で、地域の情報収集及び伝達等を行う「校区防災要員」と市災害対策本部との情報伝達を行う「地域防災要員」を市内6地域（6ブロック）に配置することを定めています。また、阪神・淡路大震災以降は校区単位、ブロック単位で地域との情報伝達訓練等を実施し、情報収集伝達体制の強化をはかってきた経過があることから、この体制を最大限に活用した防災用備蓄倉庫の考え方を定めます。

(1) 機能と役割

分散備蓄

- 役割・・・発災直後、家屋が全壊、半壊、全焼する等して、着の身着のまま避難された方に対して、すみやかに必要な物資が交付できるよう備蓄する。
- 内容・・・水、毛布、食料、トイレ（生活するうえで最低限必要となるもの）
- 場所・・・避難所（市立小・中学校等）の一部に設けた備蓄スペース

防災用備蓄倉庫

- 役割・・・①平時～発災直後（24時間まで）**備蓄**
府の方針に基づき市の役割分となる物資を備蓄する。
発災直後は、各地域に物資を速やかに交付する。
 - ②24時間～72時間**バッファー（一時保管）**
プッシュ型で輸送拠点に搬入された物資のうち、荷捌きが必要となる物資等をバッファーする。
 - ③72時間以降**トランジット（積み替え）**
プル型で輸送拠点に搬入された物資のうち、荷捌きが必要となる物資等を受入れ、荷捌き後、物資に応じてトランジットし、避難所や公共用地に臨時的に設けたデポジット（保管）センターへ配送する。また、②でバッファーしていた物資を荷捌き後、各避難所等へ配送する。
- 内容・・・食料、生活必需品、資器材（府の備蓄方針に基づく重要11品目等）
 - 場所・・・市内6地域に各1箇所整備

輸送拠点

- 役割・・・①発災後24時間～72時間**トランジット**
全国各地や府からプッシュ型で届けられた物資の物流を切らさないようトランジットセンターとして機能させる。
 - ②72時間以降**トランジット**
プル型で届けられた物資を、要求のあった避難所へ一刻も早く配送する。
- 内容・・・基本的には物資の備蓄は無
 - 場所・・・市内南北に1箇所整備（それぞれのバックアップも兼ねる）

(2) 防災用備蓄倉庫等の整備計画及び補修計画

ア 分散備蓄

各避難所（市立小・中学校等）に備蓄スペース（救助用資器材倉庫含む）を整備します。ただし、校舎の大規模改修工事等がある場合には、校舎の一部に物資を保管する場所を整備します。

イ 防災用備蓄倉庫

防災用備蓄倉庫については、都市基盤整備や公共施設の再整備等にあわせて、立地条件等（当該地域において予想される被害量、避難者数、避難所へのアクセス）を踏まえつつ、必要な整備を行います。

防災用備蓄倉庫の整備にあっては、既存施設の活用を基本とします。築30年以上経過した施設も含まれることから、長寿命化を図るため、必要な補修を進めます。

○防災用備蓄倉庫一覧

地域	備蓄倉庫名（仮称）	所在地
JR以南地域	JR以南地域備蓄倉庫	幸町 20-2
山田・千里丘地域	山田・千里丘地域備蓄倉庫	山田西 2-10-1
豊津・江坂・南吹田地域	豊津・南吹田地域備蓄倉庫	検討中
片山・岸部地域	片山・岸部地域備蓄倉庫	検討中
千里山・佐井寺地域	千里山・佐井寺地域備蓄倉庫	検討中
千里ニュータウン地域	千里ニュータウン地域備蓄倉庫	千里万博公園 3-3

ウ 輸送拠点

輸送拠点については、発災時には全国各地から届く救援物資の集積地となり、トランジットセンターとしての役割を機能させる必要があることから、想定される物流の規模等に応じて、地域の民間物流業者と施設の活用等（機材の活用、マンパワーの活用、輸送手段確保等の物流全般にわたるノウハウ）について協力連携を図り、必要な整備を行います。

○輸送拠点

地域	輸送拠点名（仮称）	所在地
北部	吹田市北部輸送拠点	千里万博公園 3-3
南部	吹田市南部輸送拠点	岸部南 3-34-1

(3) 備蓄倉庫に配備する品目

平成 27 年 12 月に大阪府域救援物資対策協議会により策定された「大規模災害時における救援物資に関する今後の備蓄方針について」で示された品目を備蓄するもの
とします。

ア 分散備蓄

分散備蓄スペースに備蓄する公的備蓄物資については、原則として、同一品目を
緊急的に避難された方用として必要な数量を備蓄するものとしてします。

イ 防災用備蓄倉庫

発災後 24 時間以内に必要となる物資について、各地域の避難所分を集約し補
完・補充を図るため、防災用備蓄倉庫で備蓄する公的備蓄物資の品目（食料）は、
分散備蓄と同じものとしてします。

また、生活必需品や資機材については、原則として、同一品目を各地域に必要な
数量を備蓄するものとしてします。

ウ 輸送拠点

輸送拠点では、発災後 24 時間以降、全国各地から届けられた救援物資を避難所
へ届けるためトランジットし、物流を切らさないようにするため物資をデポジット
しないものとしてします。

以上